

■卓話■

ガバナー公式訪問 加藤雄彦ガバナー

どうも皆さんこんにちは。仙台ロータリークラブの会員でございます、加藤雄彦と申します。職業奉仕は学校法人仙台育英学園の理事長・コーチをしておりまして、実は昨日が創立120周年を迎えたところでございました。そういう中で、多分120年というとはびんと来られているという方もいらっしゃると思いますが、ではロータリーと同じじゃないかと。こういうふうにお考えになればいいんじゃないかなと思うんですが、実は同じ明治38年にできてる学校でございます。

私の4代前の曾祖父ですね。会津若松出身ですけれども、ちょうど日露戦争で奉天会戦というのがございまして、そこで第2師団の二等兵ですね。そして突撃を命じられて、その結果、ここのこめかみの脇のところと膝のところにロシア軍の機関銃の玉が当たりまして、その関係で会津からももちろん第2師団が管轄でございますので、仙台の衛戍病院というところに運ばれました。衛戍病院と陸軍病院と全く違います。陸軍病院というのはそこで怪我した人はもう一度戦地に戻るということになりますが、衛戍病院の場合はその後亡くなるかあるいは障害・大きな障害を持って人生を送るか、ということなんです。私の曾祖父の場合は運が良くて、ちょうど搬送されて、後方に下げられて仙台衛戍病院に参りましたけれど、無事意識が戻って、育英塾という小さな学校を明治38年の10月1日に創設したということでございます。ですから、仙台とはそこからの縁ですので、ちょうど120年前からの仙台の縁でございます。それまでは、先ほど言いましたけれども会津藩でございますので、負けたくないというのがベースにあるところでございます。秀吉さんの名前があったのであれなんですけど、豊臣秀吉公の名によって蒲生氏郷という戦国大名がいましたけれども、その戦国大名の家来としてあちこち転戦して最後は会津藩に入った、そういう流れの人の末裔でございます。



来訪者紹介 加藤ガバナー・
小山田ガバナー補佐・柴田ガバナーノミニ



加藤雄彦ガバナー

さて、そういうお話の中で皆様方にお伝えしたいことですが、ちょっと時間の関係もございますのでここからいきます。皆さん方はご存じのように国際ロータリーというのは今、3年間しっかりとクラブの運営に関して同じ方針でやっていきたいと思います、それを「3-year Rolling Goals」という名前で行っていることはご存じだと思います。その「3-year Rolling Goals」の中でですね、一番最初に皆様方にクラブの会員の方にお伝えしなきゃいけないことは「Adapt」です。適応力です。これを学校法人仙台育英学園でいいますと、毎年入学定員1000名なんですけれども、この1000名の高校1年生を集めるために様々な工夫をしております。3年間の戦略計画もちろんですけれど、50年後どうするかという計画も含めてずっと先の計

画を立てていきます。それに向かって、どう結果としてどうなったかということを繰り返していくわけですが、その「Adapt」がなければ少子化の時代でも対応できませんし、定員1000名は確保できないということではありますが、お蔭様で毎年1000名〜1200名の間で1学年35学級から40学級の間で生徒を集めることができているのは、まさにこの適応力そのものだというふうにご理解いただければいいと思います。同じように、皆様方の会社も同じじゃないかなと思いますが、同じくこの盛岡北ロータリークラブもクラブの戦略がなければクラブとして存続ができなくなる。こういう中で、今日もフェイスブック渡邊幹事のご説明を受けましたけれど、力づくでやってるなと思いますながら、やはり盛岡北さんは歴史と伝統がありますし、ガバナーも3人も配置されている名門クラブでございますし、私としては非常に誇らしく思いながら、今日喜びながら伺ったわけですが、ぜひこの「Adapt」というのをこれからも続けていっていただきたいなというふうに思います。

次は「Reach」これはもう会員の皆さん方のことをさします。会員の皆さん方も、もちろん会員増強していくということがその意味になるんですけども、これが失敗したクラブとしては、6月末終結の岩谷堂ロータリークラブさんです。そして8月末終結した平泉ロータリーも同じです。いずれもが世代交代ができないうような中で消滅ということでございます。今年末にですね、第6分区か第5分区で一つ消滅するということのようなことも言われていますけど、そこはもうまたクラブ訪問して確認していこうと思っておりますが、いずれの場合も会員に関する世代交代ができてないというのがクラブの存続にかかわっているということですね。そういう中で、もう一つ大切なことがあります。人がいればいいというだけじゃないですね。やっぱり「エンゲージメント」、要するに参加者の積極的な関わりを促していくというのはクラブのリーダーの役目のように見えますが、実はこれはクラブ会員一人ひとりが関わっていることです。フェイスブックを見ていて、何か飲み会になると必ず山地さんの顔が映ってんだけど、それだけじゃないんですけども、別にそれが全てではないけれど、今日ここにいらっしゃる皆さん方は初めましてだったはずの人もいるはずなんですけれども、出てきている顔を説明を受けていますので、なじみのある顔に見えちゃって、そこで説明を受けてきましたので、すごいこと、エンゲージメントが上手

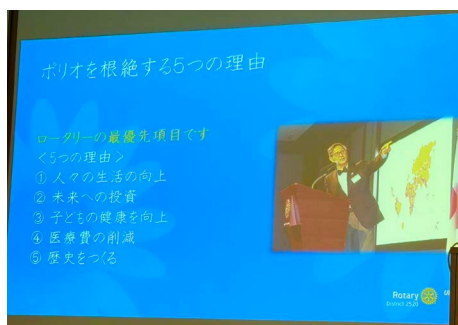
にできていらっしゃるなと、こんなふうに思いました。

さて、ここがポイントなんですが、ガバナーをやりますと、国際ロータリーの会長を命ぜられるようにやらなきゃいけないと思うんですけども、私は多少、私って相当ひねくれているかもしれませんが。年次寄付基金への寄付シェアですけど、それからポリオプラスへの寄付だとか、あるいはベネファクターをつくってぜひというようなお願いをするんですが、これに関しては相当RIから言われます。そして、RIの理事をやっている水野功さんから、私の大学院の先輩ってこともあるんで、どうなった、どうなったって必ず言われるんですけど、私はそうやってノルマのように言われることがおかしい。ロータリーは奉仕団体でしょう。奉仕団体は目標としてあるのはいいけど、ノルマじゃありませんよね。このことをぜひ盛岡北のこのメンバーの皆さん方に再確認をお願いしたいと思います。それぞれの懐具合、それぞれのいろんな事情の中で、状況の中でよかれと思って寄付されるのは構いませんけど、何か言われて、みんながやってるから、やらなきゃいけないとなったら、どこかのLクラブとおんなじになります。そういうことはロータリーにはないということですね、ぜひこの場で確認をお願いしたいと思います。

フランチェスコ・アレツォ、彼はイタリア人でシチリアの方です。非常に和やかな方でして、このフランチェスコ・アレツォさんに私はもちろん、その前のマリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴというブラジル人の会長エレクトもいましたけれども、やはり非常に両方ともフランクな方です。ちょっとここについては飛ばします。

このエンドポリオのポスターですけど、ステファニー A. アーチック前年度の会長、多分ガバナー補佐をやられた女性の方ですが、彼女から会長賞をいただきました。600近い作品が投稿されたんですね。それを8つの作品に集約するという作業については「RPIC」といって、ロータリー公共イメージコーディネーターと言います。そのRPICの人達を選びました。その8つの中に入ってたんですが、ステファニーさんはこれを、この作品を見てですね、もう15分間見てこれだって言って、理由をステージでみんなが今、ロータリー研究会が12月にございましたが、その時にあったことがあります。1つ自分たちより若い世代の人達だと、この写真がね。それから2つ目がね、その若い世代の人達がロータリーが掲げているエンド

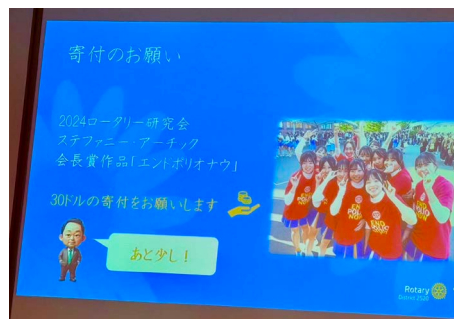
ポリオ、ポリオを根絶するという事に関して賛意を出してくれて、最後は大切なんですけどここに「UNITE FOR GOOD」っていうバッジをつけてますが、UNITEしてるってことです。一緒になってる、団結してる。これは素晴らしいと言って、ステファニー A. アーチック会長は選んでくださいました。ポリオにつきましては、もう一つお願いがございます。皆さん方の中でエンドポリオっていうのはお分かりですよね。ポリオ根絶だね、分かりだと思います。ポリオプラスって何だかお分かりでしょうか。特に入会3年未満の方だとポリオプラスって何だって言われても、何かポリオでしょっていう、それで終わっちゃってるんじゃないかなと思います。これはビル・ゲイツさんによると、ポリオはまもなく終わります。根絶されます。でもその次にやらなきゃいけないターゲットがマラリアだと言ってます。要するに、感染症を人類からなくすための努力は、ロータリーは続けていくということを出してるわけです。ですからポリオプラスなんだと言うことで、プラスはそういう別の新たな感染症に向けてのロータリーの戦略計画なんだというふうに思っていたきたいと思います。そうすることによってロータリーは人類の史上、ポリオを根絶させたことになるし、マラリアを根絶せよ、それも全部歴史に残ります。そして医療費の削減や子どもへの健康向上にもつながるし、未来への投資もしたことになるし、人々の生活を向上させることはもう当たり前の話です。



ポリオ根絶

尾身茂先生、よく出てらっしゃいましたよね。新型コロナウイルスの時ね、感染症の時ね。尾身先生については、来年の5月の17日ですけれども、ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング、まさにここです。ここにいらっしゃいます。これは柴田茂ガバナーエレクトが招集するこのクラブラーニングアセンブリに講師として来られます。出来ればノルマじゃないですよ。ポ

リオに関しては、全国で下から数えた方がいい地区なんですけど少し気にしていただいて、尾身先生来るんだから少しいいとこ見せようじゃないかというふうに私も思ってますので、今月10月24日がエンドポリオの日ですけど、そこに向けて寄付しなきゃいけないなと私は個人的に思ってると思います。



ポリオプラス寄付のお願い

次にですね、補助金の活用例ですけれども、こちらの盛岡北さんに関わる部分としては、インターアクト年次大会のことを申し上げたいと思います。ウクライナという国をご存知だと思いますが、ロシアと戦っている国です。自分の領土を奪われているので、それを奪還したいということでやってらっしゃるわけですね。そこには1地区だけあります。第2232地区です。2232地区には41のロータリークラブがございます。そのロータリークラブの中に、チェルカースィというロータリークラブがあります。首都のキーウからちょうど車で2時間ぐらいのところなんですけど、そのチェルカースィのロータリークラブがスポンサーしているのが第27学校でございます。15歳から18歳までの方が学んでいますけど。その学校にインターアクトクラブができました。それでそのクラブを私は呼ぼうということで、仙台東ロータリーの高橋正樹当時会長エレクトに言いましたら「先生いろんなことをやるけど、これ無理だっちゃ。」仙台弁で無理だっちゃって言われたんです。「戦争してんだろ、来るわけねえよ。」「いや、だから高橋さんね、男子生徒を入れたら呼ばませんよ」つったんです。男子生徒は15歳以降は国外に出れませんから、徴兵がありますので。そういうことで女子だけにしようということで、6人の女子生徒が参りました。それに至るまでの間には様々なドラマがあったんですが、これ話だけで実は3時間ぐらいかかる。そのためのやつはまた別の時私はやろう

と思ってますが、ただおかげさまでロータリーボイスというのがあります。財団のニュースの中のロータリーボイスをクリックしてもらって結構です。そこに私投稿してあります。国際ロータリーのグローバルコミュニケーション部の方から言われて、ぜひ投稿してくれと言われてやっています。今月30日にはその英語版が出ます。ということは、112万の全てのロータリアンがそれを見る機会ができるということになります。要するに、2520地区と2232地区はそういう点で繋がりがあってことをご理解いただきたいと思います。

私の仕事、これは今度は地区です。「3-year Rolling Target / Plan」でありますけれども、3万4000円の地区付加金を2万9000円にいたしました。5,000円下げました。皆さんのクラブでいかがでしょうか。クラブ運営上どうか、今日はその話でお伺いしませんでしたが。ただ、私は5,000円下げたことも大きいけれど、それ以上に大きかったのは、公益法人会計基準に変更したということです。それは、今日のクラブ訪問にあたって事前にいただいた資料を見ていて、この盛岡北さんのすごい歴史、伝統、そして実績を全部拝見した中で、その2004年・2005年度に旧2520地区岩手と旧2810地区宮城が一緒になったんですね、再びね。その時に実は会計基準が別々だったんです。それに私が気づいたのは、ガバナーエレクトになった去年の7月です。これはまずいぞと思いました。というのは、繰越金はOKですけども、積立できないですね。不正蓄財になっちゃうから。それで全部見直しをやりました。3ヶ月かけて全部5年間チェックして、勘定科目をバラバラにして、それで早見表を作って、そこから新しい資金収支計算書を作りました。これをこの間、会長エレクトの皆さん方にも当時ですけど見ていただいて、しかも地区ラーニングセミナーでもご説明して、ご承認いただいたというのをごぞいます。

2つ目にやったこと、ロータリー章典ということは聞かれたことはありますか。手続き要覧だったら知ってるよという方もいらっしゃると思います。今、ロータリー章典といいます。これはロータリーの憲法です。528ページあります。これ全部読んでくださいよってことは決して言いませんが、私はガバナーですから、3回ほど読んでチェックして、この地区にとって大きな課題となっているものを解決する糸口にしてみました。ということで、地区の組織は全部見直しが終わったということで、柴田ガバナー年度には磐石の

構えていけるんじゃないかなというふうに思います。

3つ目、これは新たなパートナーシップを見つけてくださいというのが、フランチェスコ・アレツォ会長の思いですね。そういうことで、先程言いましたように、ウクライナ2232地区と国際共同委員会を設立しましょう。日本とウクライナの国際共同委員会ですね。これは通称ICCでいいです。これは実はロータリーの歴史、日本の歴史、105年のロータリーの歴史の中で一度も締結されていません。どの国とも残念ながら。ところが、世界中119の国と地域は、この国際共同委員会を600以上作っています。今回初めてそれをやりましょうってことで、これに私は挑戦しております。これは地区ガバナーじゃないとできない仕事なんですね。そういう中で、これは皆さんご存じだと思いますけれども、ロータリーの中核的価値観、親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップ、知ってるわいと思われると思いますけれども、皆さん方どうでしょうか。ここに付けているこのロータリーのエンブレム、こっちはロータリーのバッジですよ。皆さん方、丸いのを付けてますね。これがロータリーのバッジです。ネームプレートのことをバッジと言います。こちらのこれはエンブレム、ロータリーエンブレム、これをロータリーのバッジ、バッジって言うてる人がいたとすれば、それは日本国内ではまだいいかもしれませんが、世界で行った時にロータリーのバッジと言ったら、あなたのネームプレートどうしたの?と言われる。ただ、このロータリーのエンブレムを付けてることによって、例えば世界どこでもいいですよ。ホテルに行ったら、エレベーター乗って、こうやってたら向こうから同じエンブレムを付けてくれる人がいたら、お互いまずアイコンタクトしますよね。上の階に行くまでの間、握手して仲良くなりますよね。これはロータリーのエンブレムがもたらすものであり、それは我々は親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップ、これをやるからだということになります。よろしいでしょうか。私はもう一つ、ロータリーで、国際ロータリーで、この人はいいこと言ったなと思うのは、事務総長のジョン・ヒューコです。彼はウクライナ人でキウロータリークラブの会員ですけども、その中で変えなければならぬのは、伝統とは私たちが作るものです。伝統が私達を作るものではありません。要するに変革への改革へのためらいはなくしてくださいということを行っています。まさにロータリーはこれを今実践しているわけですね。そういう中でウクライナといろんなご

縁が出来てきてますので。ロータリーというのは全部歌で始まり、歌で終わるじゃないですか。ということで、私も1曲作ってみました。作詞したってことです。で、作曲は音楽Aの情報科学コースの鈴木ゆうじ君にやってもらいました。この歌なんですけれども、これから2分59秒でご紹介をしたいなと思います。

～♪

7月19日にありました、地区のインターアクト年次総会の雰囲気ですけれども、高校生はウクライナの生徒たちと英語で上手にコミュニケーションをしていました。

～♪

これは宮城県登米市にあります仙台育英学園東和建設校舎で食事をした時です。仙台東と多賀城ロータリーの方も入っていただきました。

ありがとうございました。最後にこれを皆さん方にプレゼントしたいと思います。ここに4つのテストがありますね。4つのテストね。これ英語で言うと「THE FOUR-WAY TEST」になります。実はこのフレーズというのは、日本人はみんなこの4つで終わりだと思ってるんですね。ところが、正確には5つ目のフレーズがあります。それが「善意を送れば、いつかその善意が自分に返ってくる」ってことです。要するに「慈悲利他」ってことです。仏教で言えばね。よろしいでしょうか。英語で言います。「When we pay it forward it will be returned」って言葉ですけど、何が言いたい。我々は3年先のために投資をしている訳です。寄付ですね、利息が付きます。それが地区に戻ってきます、DDFです。「District Designated Fund」って言いますが、地区が使える自由なお金です。そのうちの半分が「District Grants」ですから、地区補助金になります。皆さん方がかですか。今年も使われましたよね。子供食堂、子供の本や図書館ね。本箱ね、すごく立派なことです。私、まず、これ本当に素晴らしいと思います。でも止めないでください。毎年寄付してるんだから、来年のことをまた考えてください。来年の2月までに申し込んでいただくようにしたい、していただきたいなと思います。これはクラブの会長、幹事が必ず意識しなきゃいけないことですよ。会員に対してその期待に応えなきゃいけないってことになります。



4つのテスト

最後に、ロータリーの旅は一緒にということですが、フランチェスコ・アレツォさんとアナマリアさんってこの奥さんですけど、パートナーですが、とってもフランクな方です。国際大会に来ますと、閉会式カルガリーで実は私は白ワイン飲んでました。終わったこれだと思ってね。1杯飲んでたんですけど。そしたらね、なんと後から「エレクト！エレクト！」ってこういうことで誰よ？と思ったら、「アレツォ！アレツォ！」って自分で言うんですよ。それで一緒に飲もうって。白ワイン飲みまして、3人でへべれけに酔っぱらったところを、一番右側のエイドがゲラゲラ笑ってると。これがロータリーの面白さだと思います。まさにロータリーのエンブレムを付けてるからそういうことが出来るという奇跡ですね。ありがとうございました。ご清聴。



集合写真

■会長報告■

本日は加藤ガバナーが仙台からお越しですので、仙台に関して私が感動したことをお話ししたいと思います。

「失敗の本質」という本がございます。これは第二次大戦における、日米の各戦における戦い方の分析を行っている本で、現代の経営者にとってもいい指南書になるような本です。その本の中で、ガダルカナルの戦いを分析している章があります。

ガダルカナルの戦いという短く発音してガ島と発音し、それを漢字にあてはめて飢島というぐらい、日本の兵隊さんが餓死や戦病死でなくなった戦として知られております。いわゆる日本軍がアメリカ軍に対して手も足も出なかった戦として私は認識しておりました。

しかし、敵の司令部付近まで進出して、飛行場奪還まであと少しとせまり、退却してくる海兵隊員を敵の司令官が「貴様たちになくて彼らにあるのはガッツだけだ」

と叱咤激励させた部隊がありました。アメリカの戦史研究家サミュエルモリソンが「太平洋戦争の最も決定的な地上戦闘の一つ。もし飛行場を失っていたら戦局は逆転していただろう」と書いているそうです。

アメリカ軍を心胆寒からしめたその部隊が仙台の青葉支隊から派遣された田村大隊とのことです。

その仙台の先輩たちの戦った場所が今では「血染めの丘」、あるいは海兵隊員たちを「貴様たちになくて彼らにあるのはガッツだけだ」と叱咤激励した大佐の名前で「Edson丘」と呼ばれているとのことです。

東北の仙台の方々が、歴史家が「太平洋戦争の最も決定的な地上戦闘」と言っているその戦で雄々しく戦い抜いたということで大変感激いたしましたので仙台から加藤ガバナーがいらしたときにお話ししようと思っておりました。

■幹事報告■

- 1.日曜日の稲刈りにご参加頂いた皆さん、ありがとうございました。詳しくは委員会報告で奉仕プロジェクトのほうからお願いいたします。
- 2.盛岡市内RC合同チャリティーゴルフコンペには山地会員、晴山会員、長野会員 3名申し込み頂きました。本番11/8頑張ってきてください。

- 3.暴力団追放盛岡市民総決起大会のご案内

日時 10月21日(土)午後2時～3時

場所 岩手県公会堂2階 21号室

参加希望の方は10月9日(木)までに事務所まで

- 4.本日は第一例会ですので、終了後理事役員会がごいます。

■その他■

委員会報告 奉仕プロジェクト 鈴木委員長

稲刈り参加の皆様ありがとうございました。

お天気にも恵まれ、最年少は3歳から皆で和やかに楽しく、無事に稲刈りを致しました。終了後には、あぜ道でおにぎりや芋の子汁を大変美味しく頂きました。



慎重に～鎌の使い方も上手



力をあわせて



頑張ってます



頼れる大先輩



稲刈り 集合写真

■記念日おめでとうございます■

誕生日

吉田祐一会員（23日）

佐々木政聡会員（30日）

結婚記念日

北田春美会員（2日）

岩井澤昭一会員（5日）

菊地克昌会員（9日）

二宮一見会員（10日）

赤坂俊幸会員（20日）

創立記念日

山地信行会員（2日） ユーロガレージ(株)

■メーキャップ■

三上武美会員（6/22 コンペ表彰式）

■出席累計表彰■（10月達成）

三上武美会員 1年

■ビジター■

加藤雄彦ガバナー（仙台RC）

小山田榮二ガバナー補佐（盛岡西RC）

柴田茂ガバナーエレクト（盛岡東RC）

SMILE

☆加藤雄彦ガバナー…クラブ会員のご健康・事業繁栄 そしてクラブの発展をお祈りいたします。

☆小山田榮二ガバナー補佐…皆さまにお会いできて大変嬉しいのでスマイルします。

☆柴田茂ガバナーエレクト…皆さまにお会いできて大変嬉しいのでスマイルします。

☆黒川賀重会長…加藤ガバナーにお会いできましたのでスマイルします。

☆渡邊史隆会員…先日の稲刈りイベントの成功と加藤ガバナー、小山田ガバナー補佐、柴田ガバナーエレクトのご来訪にスマイルします。

☆岩井澤昭一会員…ガバナー訪問を祝して！

☆工藤泰会員…加藤ガバナー、小山田ガバナー補佐、柴田ガバナーエレクトのご来訪を歓迎して。先日の稲刈りイベントの成功を祝して。

☆吉田祐一会員・田村清記会員・山地信行会員・鈴木裕子会員・二宮一見会員・日山健一会員・海野講榮会員・小保内義和会員・片方直哉会員・北田春美会員・細野裕之会員・藤澤大祐会員・三上武美会員・米内紘正会員・髙田洋一会員・山田隆会員…加藤ガバナー、小山田ガバナー補佐、柴田ガバナーエレクトのご来訪を歓迎してスマイルします。

（出） （席） （報） （告）

会員数	35名
出席数	22名
出席率	67.71%
前々回修正出席率	60.00%

卓話予定：米内紘正会員